

## 両堂のお不動様

昔々、大同の頃、両堂には大きな沼があつただど。その沼は細長く南北にのびててな、その端は中荒井まで続いてただど。この沼は湧水による沼だったから、夏にどんなに日照りが続いても水が無くなんねぐつて、冬はどんなに寒くなつても氷がはることはながつた。お不動様は、この沼の主でな、お不動様は初め、沼の端の小さな畦地に、小さな祠を建ててお奉りしてあつてな、沼頭のお不動様って呼ばつちたんだど。

両堂のお不動様は靈驗あらたかな神様でな、お願いしたことは、すべて叶えてくれんだど。例えばな、目の病にかかったり、眼の弱い人が信仰すつと、すぐ治つちまうだど。この御利益のすばらしきは、近所の人たちはもちろん、遠くの人々にも知れでな、日に日に祈願する参拝者が多くなつただど。それで、自然と参道が広くなつてきただど。字古屋敷にあつた両堂の家々も一軒移り二軒移りして、参道の両側に集まつてな、今のような家並